

日蓮大聖人御書全集

さじきのにようぼうごへんじ

桟敷女房御返事

むりようむへん くどく こと

（無量無辺の功德の事）

さじきのにようぼうごへんじ

むりょうむへん

くどく

こと

棧敷女房御返事

(無量無邊の功德の事)

けんじがんねん

がつ

にち

建治元年(75)5月25日

54歳

棧敷女房

によいん

みす

器

もの

さい

さじきのにようぼう

や

女人は水のごとし、うつわ物にしたがう。女人は矢のご

とし、弓につがわざる。女人はふねのごとし、かじのまかす

によいん

舟

楫

任

るによるべし。しかるに、女人は、おとこぬす人なれば女人

びと

おう

によいん

夫

后

盗

びと

ぬす人となる。おとこ王なれば女人きさきとなる。おとこ

ぜんにん

によいんほとけ

こんじよう

ごしよう

善人なれば女人仏になる。今生のみならず、後生もおと

こによるなり。しかるに、兵衛のさえもんどのは法華経の

ひょうえ

左衛門

殿

ほけきよう

行者なり。たといいかなることありとも、おとこのめなれ

ぎようじや

男

妻

ば、法華経の女人とこそ 仏はしろしめされて 候 らんに、
また我とこころをおこして、法華経の御ために御かたびら
おくりたびて 候。

ほけきょう にょにん ほとけ 知 そそうう

われ 心 発 ほけきょう おん おん 帷

送 紿 そそうう

ほけきょう ぎょうじや ににん しょうにん かわ ほとけ そそうう

法華経の行者に一人あり。聖人は皮をはいで文字を
うつす。凡夫はただひとつきて 候 かたびらなどを法華経
の行者に供養すれば、皮をはぐうちに仏おさめさせ給う
なり。この人のかたびらは、法華経の六万九千三百八十四の
文字の仏にまいらせさせ給いぬれば、六万九千三百
八十四のかたびらなり。また六万九千三百八十四の仏、

ほけきょう ひと 帷 ほとけ 納 ほとけ たも

もんじ ほとけ 進 たま ほけきょう ろくまんくせんせんせんびやくはちじゅうし

はちじゅうし ろくまんくせんせんせんびやくはちじゅうし ほとけ

およ

に及ばずと、おぼしめすべし。

思

恐々謹言。

きょうきょうきんげん

にちれん

日蓮

花押

かおう

ごがつにじゅうごにち

五月二十五日

桜敷にようぼうごへんじ
さじき女房御返事